



スマートフォンなどの画面上に、街の今昔を比較できる写真を表示するアプリ

自分の街に愛着を

高津区アプリで今昔の写真

若い世代に自分が住む街への愛着をもってもらうべく、川崎市高津区はスマートフォン（多機能携帯電話）「iPhone（アイフォーン）」や多機能端末「iPad（アイパッド）」の画面上に今昔の写真などが表示されるアプリ「たかつぶらり」の運用を開始した。初期画面の「App Store」から無料でダウンロードできる。

GPS（衛星利用測位シ

ステム）機能をもった区内3カ所の地図上に、溝口中央商店会や薬医門公園など計九つのスポットを落とし込んでいる。番号をタッチすると、昭和初期など昔の写真と現在の写真が両方映し出される。かつて同区庁舎だった市生活文化会館（てくのかわさき）ならば「駐車場が作られ、建物の色が変わったが、それ以外は当時のままの姿を残している」といった解説を載せ

ている。

また、江戸後期の「久本村絵図」「坂戸村用水絵図」も表示され、現地を歩きながら水田の多かった当時の村にタイムスリップした気分を味わえる。

区制40周年を機に、街の古写真などを収集・活用する同区の「ふるさとアーカイブ事業」の一環。民間情報通信会社と国立情報学研

究所、同区などによる産学官の連携で開発した。使用する写真や解説などは、昨年11月に実施したワークショップで区民から出された意見を活用。同区の担当者は「区のことを知りたい人はもちろん、地図や歴史が好きな人も楽しめるのでぜひ活用してほしい」と話している。

（鴻谷 創）